

# “主権者として”に希望



札幌の若者団体ユニキタ  
更科ひかりさん

沖繩の高江や辺野古の問題のように人権が全く守られていない、憲法が守られていない社会になっていきます。

若い人たちには憲法の中身を知らない人も多くいます。ユニキタでは「憲法を守る」というだけでなく、「憲法を活かしたらどういう社会ができるんだよ」と伝えていく「対話型」の宣伝に挑戦しています。私も声を出し続けていきます。



作家

中沢 けいさん

で感じてくださっている。そこが重要で、だからすぐに「連合政府」を提案し、野党共闘までいった。生の人ポリュームを感じるのは、政治家にとって大事。日本共産党はこれからもっと機動力のある党になると思います。

この1年、市民運動が進化してきました。いろいろな力を結集する、新しいネットワークが生まれています。年齢層も幅広い。市民の声で野党共闘がで

き、静かに根を張っていきま

す。以前は、デモに行っ

てほしいということ。勝

てなかった地域で、共産

党と他の政党とのトーク

イベントとか。

東日本大震災ではいまだ

14万人が避難しています。

安倍首相はそれをほっぽり

出して改憲だ、自衛隊だ。

おかしいでしょう。

**戦争法強行**

**1年**

9-19

各界から

ユニキタは、市民運動の経験のない人も含めて幅広い札幌の若者たちが昨年11月に戦争法廃止と安倍政権打倒を掲げて結成しました。この1年無我夢中で駆け抜けてきました。

衆院北海道5区補選で、初めて他の市民団体と一緒に野党統一候補でたたか

い、自民候補をあ

とに希望を感じます。